

岩手県の広葉樹材の利用状況

はじめに

林野庁の森林資源の現況（令和4年3月31日）によれば、岩手県の森林面積は約110万ヘクタールで、そのうち広葉樹は51%を占め、全国で北海道に次ぐ広葉樹資源を有しています。

地方の他、関東、中部、近畿、中国地方まで流通しております。また、木材チップ用の広葉樹丸太は、製紙工場やチップ工場に貯木（写真3）されており、その生産量は183千m³となっています。

2 しいたけ栽培用（写真2）

広葉樹は、木材チップ用、製材用、しいたけ、木炭原木など多様な用途を持つ重要な資源です。今回は、既存の統計資料や文献等を用いて、用途別の利用状況（表1）を紹介します。

しいたけには、原木栽培と菌床栽培があり、しいたけ原木、菌床用おが粉は、それぞれ県内外へ流通しています。令和5年特用林産基礎資料（農林水産省）によれば、しいたけ原木の生産量は約10千m³で、自県向けの原木（自県分）は約7千m³、東北、関東地方へ流通する原木（他県分）は約3千m³となっています。

1 製材、木材チップ用

製材用の広葉樹丸太は、市場や製材工場に貯木されているものをよく見かけます（写真1）。令和5年木材統計（農林水産省）によれば、広葉樹の製材用丸太の生産量は26千m³で、その半数は、秋田、福島県など東北

また、県内で生産され利用される菌床用おが粉（自県分）は約10千m³で、丸太材積へ換算すると、約3千m³となります。この他、県内で生産

表1 用途別の広葉樹の利用状況

用途	生産量		丸太材積 (m ³)	備考
	数値	単位		
製材用丸太 ^{※1}	26,000	m ³	26,000	
木材チップ用丸太 ^{※1}	183,000	m ³	183,000	
しいたけ原木 ^{※2}	自県分	7,546	10,773	
	他県分	3,227		
菌床おが粉 ^{※2}	自県分	10,642	6,341	文献値 ^{※3} により、おが粉材積を丸太材積へ換算
	他県分	10,918		
木炭 ^{※2}	黒炭	1379	9,577	文献値 ^{※4} により、黒炭収率から丸太生重量を推定 文献値 ^{※5} により、白炭収率から丸太生重量を推定 文献値 ^{※6} により、丸太生重量を材積へ換算
	白炭	20		
薪 ^{※2}		5,276	3,298	文献値 ^{※7} により、屑積を実材積へ換算
合計			235,691	

※1：出典「令和5年木材統計」（農林水産省）

※2：出典「令和5年特用林産基礎資料」（農林水産省）

※3：遠藤 展ほか3名：原木1m³当たりのオガ粉発生量について 林産試験場月報, 3月号, (1983)

※4：嘉村 耕 岩手県林業試験場成果報告第2号 昭和45年10月 (1970)

※5：三浦伊八郎編、薪炭家必携、日本農林社 (1954)

※6：木材工業ハンドブック

※7：昭和35年4月6日林野業第1405号「製品事業の薪の規格について」



写真1 市場の貯木場

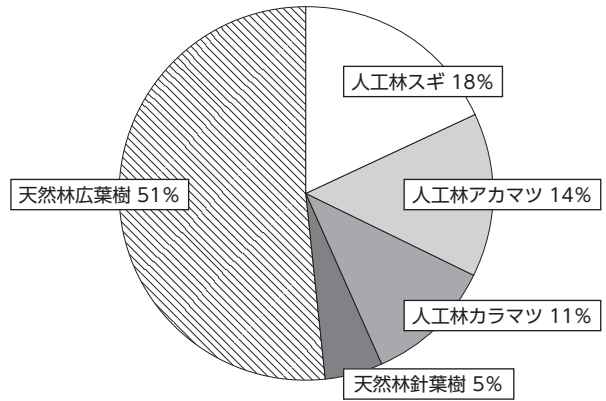


図1 岩手県の樹種別森林面積割合 (R5)



写真3 木材チップ



写真2 しいたけ原木の運材

され、秋田県、宮城県や北海道など県外へ移出されるおが粉（他県分）は、丸太換算で約3千m³となっております。

3 木炭用

特用林産統計によれば、黒炭、白炭の製炭量はそれぞれ約1300トン、20トンで、収率等の文献値を用いて、製炭に用いる原木を推定すると、黒炭、白炭を併せて約10千m³となります。

4 薪用

特用林産統計によれば、薪の生産量は約5千m³層積で、実材積に換算すると約3千m³となります。

5 生産現場の状況

事業者等への聞き取りによると、製材用丸太を生産する場合、50年生以上の広葉樹林で伐採が行われ、生産される材積の1割程度しか製材用として出材しないそうです。また、しいたけ原木、木炭原木等では、20

〜30年生のナラ類を多く含む林分が好まれるそうです。さらに、聞き取りを行った事業者の多くは、目的とする丸太を生産・搬出した後、残った丸太は製紙用として残っています。

おわりに

岩手県には、豊富な広葉樹資源があり、また、広葉樹の用途は、付加価値の高い製材用丸太やしいたけ原木から、大量の資源を必要とする製紙用木材チップまで多岐にわたっています。さらに、県内には、森林から生産された資源を効率良く流通する仕組みや木材加工事業者等があるため、広葉樹利用に適した環境が整っていると考えられます。

当センターでは広葉樹材の利用を促進するため、木材乾燥、シイタケ栽培などの研究へ取り組んでおり、今後も研究成果など技術的な情報を発信していきます。

林業技術センター 研究部

研究部長 谷内 博規